

## [成果情報名] 諫早湾干拓地における加工・業務用野菜ステムレタスの生育特性と栽培法

[要約] 8月下旬は種、窒素施肥量10kg/10a、栽植株数5,555株/10aの条件で栽培した「ステムレタス」は、11月10日、は種後生育日数 76日、生育積算温度 1,635°Cで茎重700g、茎長 70cm前後となり、10a当たり4,000kg/10a程度の収量となる。

茎長 50cm以上を収穫の目安とすると、その生育積算温度は 1,515°C前後となる。その時の種限界期は、9月8日前後である。

[キーワード] ステムレタス、生育積算温度、種限界期

[担当] 農林技術開発センター・干拓営農研究部門

[連絡先] 0957-35-1272

[区分] 総合・営農(干拓)、野菜

[分類] 指導

---

### [背景・ねらい]

諫早湾干拓地における大規模営農では経営安定の方策として、契約等による加工・業務用野菜の生産の重要性が高い。ステムレタスは、そのほとんどが中国から輸入されており、一般に「山くらげ」「サンジャー菜」「皇帝菜」などの名前で販売されている。

国産志向が高まる中で将来的な需要も見込まれ、加工・業務用野菜の選択品目のひとつとして生育・収量特性について調査し、栽培適応性を評価する。

### [成果の内容・特徴]

1. 播種後62日、定植後45日となる10月27日には茎重381g、茎長35cmに達し、一部は収穫可能となる。生育が揃い一斉収穫が可能となるのは11月10日前後であり、茎重700g、茎長70cm前後となり、10a当たり4,000kg/10a程度の収量となる。順調な生育、収量を示すことから干拓地での栽培適応性に問題はない。(表1)

2. 播種後日数または定植後日数と茎重、茎長の間には高い相関が認められる。同様に播種後積算温度、定植後積算温度と茎重、茎長との間にも高い相関が認められ、中でもは種後積算温度との相関が最も高い。(表2)

茎長を目的変数とする関係式は、 $y = 0.00006x^2 - 0.0579x$  で示され、抽苔は、は種後の積算温度が 965°C (38日)頃から始まり、茎長50cm以上を収穫の目安とすると、播種後積算温度 1,515°C (68日)頃となる。その時の収量は3,600kg/10a程度が見込まれる。

3. 一般的に結球レタスの抽苔は高温長日で分化・促進され、5°C以上の有効積算温度が 1,500~1,700°Cくらいで行われるといわれており、ステムレタスでもほぼ同様の条件で一致する。ただし、花芽分化後でも15°C以下の条件下では抽台しないと言われている。このことを応用すると、諫早湾干拓中央干拓地気象の平年値(2002~2007年平均)で、最高気温が15°C未満となるのは12月3日であり、この時期までに積算温度1,515°Cを確保できる起日は9月8日となり、その時期がは種の限界期と判断される。

### [成果の活用面、留意点]

1. 栽培の条件は、耕種概要のとおりである。

2. 春作の場合は、別途作型設定の判断が必要である。

[具体的データ]

表1 ステムレタスの時期別収量

月日	全重 (g)	茎重 (g)	茎長 (cm)	葉数 (枚)	10a換算 (kg/10a)
10/27	1,156 ±133.1	381.3 ±81.3	34.9 ±6.7	61.5 ±9.8	2,118
10/31		560.1 ±151.6	55.5 ±4.5		3,111
11/05		648.3 ±173.2	61.6 ±8.0		3,601
11/10		709.9 ±116.5	68.2 ±5.9		3,943
11/13		790.5 ±200.1	73.9 ±8.3		4,391

[耕種概要]

は種 平成20年8月26日 (128穴セルトレイは種)  
 定植 9月12日 (全自動移植機による)  
 栽植距離 畦巾120cm×株間30cm 2条植え  
 5,555株/10a  
 施肥量 N-10kg/10a (硫安47.6kg/10a)

表2 は種(定植)後日数、積算温度と  
茎重、茎長の関係の寄与率

	茎重(y1)	茎長(y2)
播種後日数(x1)	0.9837	0.9724
定植後日数(x2)	0.9836	0.9723
播種後積算温度(x3)	0.9843	0.9735
定植後積算温度(x4)	0.9838	0.9728

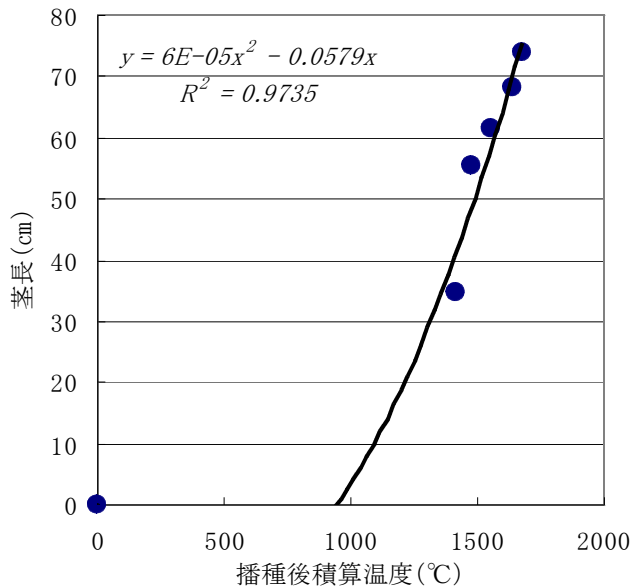


図1 は種後積算温度と茎長の関係



写真1 収穫茎の状況



写真2 加工品の状況

[その他]

研究課題名：Ⅱ．諫早湾干拓農産物のブランド化に向けた栽培技術確立

①加工・業務用需要に対応した栽培法の確立

予算区分：県単

研究期間：2008～2010年度

研究担当者：小林雅昭

発表論文等：